20日　木曜

民数

3:1 これは、【主】がシナイ山でモーセと語られたときの、アロンとモーセの系図である。
3:2 アロンの息子たちの名は、長子ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
3:3 これらはアロンの息子たちの名で、彼らは油注がれて祭司職に任じられた祭司であった。
3:4 ナダブとアビフは、シナイの荒野で【主】の前に異なる火を献げたときに、【主】の前で死んだ。彼らには子がいなかった。それでエルアザルとイタマルが父アロンの生存中から祭司として仕えた。
3:5 【主】はモーセに告げられた。
3:6 「レビ部族を進み出させ、彼らを祭司アロンに付き添わせて、仕えさせよ。
3:7 彼らは会見の天幕の前で、アロンに関わる任務と全会衆に関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。
3:8 彼らは会見の天幕のすべての用具を守り、またイスラエルの子らに関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。
3:9 あなたは、レビ人をアロンとその子らに付けなさい。彼らはイスラエルの子らの中から、正式にアロンに付けられた者たちである。
3:10 あなたは、アロンとその子らを任命して、その祭司の職を守らせなければならない。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。」
3:11 【主】はモーセに告げられた。
3:12 「見よ。わたしは、イスラエルの子らのうちで最初に胎を開いたすべての長子の代わりに、イスラエルの子らの中からレビ人を取ることにした。レビ人はわたしのものとなる。
3:13 長子はすべて、わたしのものだからである。エジプトの地でわたしがすべての長子を打った日に、わたしは、人から家畜に至るまで、イスラエルのうちのすべての長子をわたしのものとして聖別した。彼らはわたしのものである。わたしは【主】である。」

Bible Reference 聖書の記述

民数記においては戦いのための実践的備えが主要課題です。しかし、だからといって主の命令や礼拝をおろそかにしてよいというのではありません。私たちは時として、臨戦態勢すなわち危急のときは、礼拝など日常のことを後回しにしたり不十分でもしかたがないと思いがちです。しかしそのようなときでも主との関係は最優先なのです。
ルターは忙しいときほど長く祈ったと伝えられています。急がしいと目的を見失ったり、無駄なことをしてしまったり、動機がずれてもきづかなかったりします。現代人は自分は忙しいという言い訳がサタンに用いられているのです。忙しい人は、それゆえに神のことばをシャットアウトしていないか、考えてみましょう。また自分は臨戦態勢なのだというような緊張にある人も、それゆえに主をないがしろにしていないか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？